



東鍼同窓会だより

2012年10月発行

第6号

同窓会の活動報告

■同窓会事業報告

H24年1月22日(日) 相談役会開催

議題：同窓会の運営について

出席者：三浦勝男（第2代会長 S35年卒）
橋本慎一（第9代会長 S40年卒）
塚本此清（第11代会長 S48年卒）
竹内廣尚（第13代会長 S45年卒）
宮入隆博（オブザーバー S34年卒）
天野寛敏・伏見富士子・戸川元志
種田啓子・千田康之（敬称略）

H24年3月20日(火)

「医黄集門第41号」800部発送

H24年4月29日(日)

13:00～ 同窓会総会(事業報告・収支報告他)

14:00～ 講演会

講師：竹村文近先生 竹村鍼灸院院長(S53年卒)
演題：「今だからこそ鍼灸」「患者さんから学ぶ」
「鍼を打つ人 打たれる人」



鍼灸師・臨床家としての心構え、みごとな手さばきの
鍼灸臨床を披露していただきました。

H24年7月1日(日)

特別講演<東鍼校主催>

講師：三浦勝男先生

演題：「伝統の素靈流による今日の私」



学校創設者：柳谷素靈先生との昔懐かしいお話から臨床。そして灸頭鍼もぐさを1トン購入した話など卒業生に加えて多くの在校生も熱心に聴き入りました。

■役員会報告

H24年7月24日(火)

東洋鍼灸専門学校素靈記念館にて

H24年卒の新理事を含め本年度第1回役員会を開催

- ①総会の総括
- ②同窓会名簿作成のためアンケート実施について

■平成24年度事業計画

会務運営方針

1. 会員数を増やす(会費を納めていただく)
2. 同窓生の運営している研究会動向調査
相互交流・特別号での発表
3. 会員名簿発行事業

(報告／総務 早川美代子)

◆ 鍼灸インタビュー ◆

「鍼一本、もぐさーひねり」

本田維宏先生を訪ねて



本田 維宏 (ほんだ まさひろ)

東洋鍼灸専門学校 昭和57年本科卒業。
本田鍼灸院開業。鍼一本、もぐさーひねりの道に入る。

東洋はり医学会常任理事を経て、古典鍼灸の学術研究会“陰陽塾”を設立、代表となる。オーストラリア、米国、エルサルバドル、ハワイ他海外で鍼灸セミナー、デモンストレーションを実施。
合気道師範6段、神道夢想流杖術鍊士6段

鍼一本、もぐさひとひねりで万病に対応できる鍼灸医学を目指す。

古典鍼灸の学術研究会“陰陽塾”代表の本田先生にお話を伺ってきました。

本田先生は、合気道師範6段、神道夢想流杖術鍊士6段をもお持ちの現役スポーツマンです。

ご趣味の幅は、武道、スポーツだけに留まらず、ギターや語学にも精通されており、現在も更なる向上を求めて精進していらっしゃいます。

そんな魅力たっぷりの本田先生が今伝えたい事を話してくださいました。

① 鍼灸の資格をもっているならば

鍼灸の資格を持っているならば…とにかく患者さんをつかまえて、いま持っている技術をやりなさい。

鍼灸治療は、全力をもってあたる。患者さん一人一人違うのが当たり前であるように、ワンパターンの治療ではなく、今持っている技術をベースに、どんどん新しいことをしたほうが良い。

もちろん、苦い経験をすることもあります。しかし、失敗をしたら次に活かせばよいのです。

本田先生は小さなお子様3人を抱えている状態で、卒業後すぐに開業されました。

看板を出すことが重要。来ていただける患者さんに全力を尽くせば、

必ず結果はついてくるとおっしゃっています。

② 一つの方法に縛られることなく

陰陽塾では、古典による身体の生理・病理状態を見極め、それを元にして治療を行います。

古典の生理・病理は素晴らしいです。鍼灸には、東洋医学的な診察診断がしっかりとある。それをしっかり勉強することで、患者さんの状態を見極めることができます。

「陰陽を診て虚実をわきまえ補瀉する」これがすべての基本です。

しかし、いつも決まった通りに治療をするわけではない。
新しいことを思いつければ、そこでみんなで試してみる。そうやって、鍼灸技術を進歩させていくのです。
人間が人間を見る以上、ひとつの筋があったとしても、常に新しいことを取り入れなければならないのです。

③ 合気道と鍼灸の共通性

鍼灸治療では、気を巡らすことに重点が置かれます。合気道においてもそれは同じことで、相手の攻めの気を動かすことで体勢を崩します。では、相手の攻めの気を動かすにはどうすればいいのか？
答えは、丹田に気を意識し、上半身の力を抜くこと。
それだけで相手の攻めの気を動かすことができるようになります。

④ 健康でいるためには

現代人を健康にするには、鍼灸治療だけでは足りません。
食養生・運動・生活習慣など、いろいろな情報を集め、勉強をし、それを実践した上で患者さんにすすめることができます。現代の患者さんは七情の乱れがすべての病の原因となっています。ストレスが多過ぎるので、好きな運動を楽しむことができれば、副交感神経が優位になり、ストレス発散に役立ちます。
また、最近の研究では「腸で血液を造っているという説」もあり、良い食事をし、腸内を綺麗に保つことも重要です。

● 著書「鍼灸真髓」

古典の理論や様々な鍼灸治療、食養生まで幅広い情報を著した書籍。
(自費出版で発刊 定価4,000円)

【合気道を体験】

まず、私が本田先生の腕を両手でがっしりと掴みます。先生が腕の力だけで私の両手を無理やりはね返そうとされますが、当然びくとも動きません。しかし、先生は腕の力を抜かれ、すっと前進。途端に私の身体は後ろに体勢を崩してしまってこれには驚きました。
是非、皆様にも体験していただきたいです！

～後記～ 今回、本田先生の真実に対して、しっかりと見極め、古きを基盤にどんどん新しいことを受け入れていく姿勢に感銘を受けました。
鍼灸師として一番大事なことを教わった気がします。
＜インタビュー／H23年卒 渡邊記章＞



医黄集門41号の情報追加と訂正

P.44「東鍼校卒業生の中心的な研究会」4. SS研究会 (SS:セルフサゼッション つまり自己暗示の意)

連絡先／会長：坂田潔治(H19年卒) 連絡先:090-7436-8996

講 師／塚本此清(S48年卒 第11代同窓会会长)

当会はインスタント禪と呼ばれる西洋と東洋の健康法をミックスしたシュルツ自律訓練法(略称AT)の

講習と普及並びに鍼灸手技療法と併用して効果を上げる研究等を続けています。

なおATは東大を始め多くの大学病院やその他の精神科・心療内科で患者さんに習得を勧めています。



新米鍼灸師の座談会



■ 参加メンバー(50音順)

大屋 規子	東京都多摩市のデイサービスに勤務
海保 昭一	埼玉県蕨市にて「海山鍼灸院」を開業
栗崎 淳	千葉県鎌ヶ谷市の鍼灸接骨院勤務
土生とき雄	往診専門
渡部 栄輝	千葉県船橋市の鍼灸院勤務

〈鍼灸あん摩マッサージ指圧科／夜間部 H24年卒〉
〈鍼灸科／昼間部 H23年卒〉
〈鍼灸あん摩マッサージ指圧科／夜間部 H24年卒〉
〈鍼灸科／夜間部 H23年卒〉
〈鍼灸科／昼間部 H23年卒〉

■ 司会

加藤 資

〈鍼灸科／昼間部 H23年卒〉

理想と現実

——本日はお忙しいところ、お集まり頂きましてありがとうございます。卒業後、現場に出られてから、学生時代に想い描いていた理想と現実の違いなどがあればお聞かせください。

海保： 去年の11月に鍼灸院を開業したのですが、やっぱり患者さんはなかなか来ない。それと、経験不足から治療が上手くいかないということです。

土生： 海保さんと同様に私の場合も患者さんが少ない。鍼灸に対する認知度が低すぎるというか、肩こり、腰痛にすら効かないと思っている人や鍼灸そのものを知らない人も多いと感じています。

私は往診専門でやっているのですが、家に来てもらうのは困るという患者さんがいます。それでも私の治療を受けたいと希望された時に、往診専門にしている私には治療する場所が無いんだと改めて実感しました。

渡部： 私は幸いなことに治療院勤務なので、就職したての頃から患者さんをさせてもらえ、また、鍼灸治療ができるという恵まれた環境にあります。

しかし現実は、入学する前からイメージしていた「鮮やかに鍼が効いて、患者さんがスパッと治って」という世界ではないというのが分かって....。少し良くなっても、次来られたときには治療前の状態に戻っているという事の繰り返し。なかなか上手くいかないと悩んでいます。

栗崎： 就職して最初に思ったことは、鍼灸に対する世間の認知度が低いというのが一つ。そして、自分のボキャブラリーの無さを実感しました。

東鍼校で教わったことは鍼灸の中でもかなり奥深いことですから、それを患者さんに伝えるためには噛み砕いて説明しなければならない。鍼灸治療以外のところで自分の力不足を痛感しました。

大屋： 私は在学一年生時から、研修させてもらっていたデイサービスに就職しました。学生の時は助手という立場で、指示された事だけを行っていたのですが、「4月からはスタッフの一員なのだからきちんとして」と言われて責任感を感じました。

患者さんは高齢者の方が多く、身体の状態が顕著に改善することが難しい中で、良い状態を保つようにいつも心がけなければならない。状態を悪化させてしまうと、当然自分に責任がある事ですからそこに神経を使います。

——ありがとうございます。何かお互いに聞きたいことはありますか。

大屋： 今回のメンバーで唯一開業されている海保さんに状況をもう少し詳しくお聞きしたいです。

海保： まだ毎月家賃分だけ垂れ流している状態です。鍼灸は認知度が低いけれど、友達の肩こりを治療すると「軽くなった！」と喜ばれます。こういう事をもう少し広めたいという思いはあるのですが、

「そればかりが鍼灸か？」という迷いもあって。それでもいろいろな病気を治療できる鍼灸師になりたいという目標はあります。だけど経験不足や一人でやっているので、難しい病気だと尻込みしてしまう場合もあります。でも、とにかく患者さんを楽にする事を心がけて治療しています。

治療方法

——皆さんの治療院に来院される患者さんの主訴は肩こりや腰痛が多いと思われますが、治療はどのようにされていますか？

渡部： 来院のきっかけは肩こりですが、実は内科系の疾患もあったという人は結構いらっしゃいます。身体全体の問題なのでその内科系疾患が根源となっている可能性がありますから、肩こり・腰痛だけでなく全身的にという形で治療しています。

栗崎： 私が勤めている治療院は全身治療です。例えば、ぎっくり腰で来院されていても、院長は腹診したり、頸を触ったり、頭の緊張を診ながら治療されています。全身調整治療で、局所のみ治療するという事はありません。

実費と保険

——実費診療と健康保険を使われる際の治療に違いはありますか？

栗崎： 院長の方針で両者の治療に、まったく違いはないです。

渡部： 保険扱いにするかしないかはどのように判断されているのですか？

栗崎： 治療期間が長くなりそうな時に、院長が個別にその患者さんに保険治療の紹介をしています。幸いに近くに鍼灸に理解のある整形外科の先生がいらっしゃるので、その医師の方に同意書を書いて頂くという形です。

渡部： うちも保険と実費を混合で行っていますが同じ様な感じです。治療期間が長くかかるというのは、例えば病気の種類で判断されるのですか？

栗崎： そこは院長の判断です。やはり鍼灸に来られる患者さんは、何らかの症状が出てすぐに来るというより、まず西洋系の病院受診から始まって、マッサージや整体に行き、最終的に泣く泣く「熱いけど…痛いけど…」で来られる患者さんが多いですね。いわゆる最後の砦。

そういう方にはきちんと治すためには、長いスパンが必要だと説明して治療していきます。

渡部： うちは院長が治療を行う場合は実費で、我々勤務鍼灸師は原則保険扱いを担当しています。ただ、ぎっくり腰など急性のものは何回かで治す事が必要なので、実費で行います。慢性的なものはどうしても長い期間がかかるケースが多いので、大体が保険に移行して治療を受けてもらっています。

もしこれから開業しようとしたときに、保険を使ってやるべきなのか、実費だけでいくべきなのか悩んでいます。保険で治療を受けている患者さんと実費を払う患者さんの意識が違うなというのを感じていて、保険の患者さんは養生的にというか、気楽に週一回来て治療を受けていくという形なのですが、実費の患者さんはシビアというか、「良くなる体操ありませんか？」とか熱心に何とか自分で治そうとする様子がみられ、そういう人のほうが治療する側としてもやりやすいです。でも、保険も保険で経済的に大変な方もいらっしゃるので、どう取り入れたらいいのかなかなか難しいと思います。

お灸の良さ

渡部： 大屋さんのデイサービスでは、難病を患っている患者さんもいらっしゃるとお聞きしたのですが、どんな治療が効果的なのでしょうか？

大屋： 効果が顕著なのはお灸です。棒灸とか灸頭鍼で温めるのがいいです。

渡部： 例えば温める機械もありますが、そいつなものでなく、敢えてお灸を使うのですか？

大屋： 敢えて「昭和の鍼灸」を続けていくのが施設長の方針なので、お灸をバンバンやらせてもらっています。

渡部： 何か匂いも良いみたいですね。お灸の香っている鍼灸院に入ってきただけで、落ち着くといつてくれる患者さんもいます。だから、お灸はただ温めるだけとも違いますね。

土生： 自分の考えとしては、お灸なんかは特に家族とか地域でやるものだと思っているのでそういうのを普及させたいというのが、すごくあります。だから、開業して一ヶ所でバンと構えてやるのではなくて、色々なところを転々としながら、お灸というものを広めたいと思っています。

これからの鍼灸

——これから鍼灸界について皆さんのご意見をお聞かせください。

渡部： ケースによっては医者と連携する事が良い方法ですが、完全に医者の中に取り込まれてしまう恐れがある、それが一番怖いし、嫌だなと思います。西洋医学で治らない人を東洋医学の違った目線で患者さんを診て治療すると、見捨てられた人が楽になったり、治ったりすることがあるわけで。それが西洋医学ベースだけの考えになったり、医者の指示でしか動けない鍼灸師ばかりになら、もう価値が無い。きちんと考えてやっていかなければならぬと思います。

大屋： これから更に高齢者が増えていく中で、それに対応できるのは鍼灸師しかいないと思っているので、私はそこに照準を合わせてやっていきます。

土生： 予防できるのも鍼灸だと思います。お灸は特に。それは自分の夢でもある普及させたいという部分と重なるんですけど。だからもっと皆さんに知ってもらわないと。構えているだけでは、鍼灸業界は終わると常に思います。

海保： 今は水だってお金で買う時代。だから、健康もお金で買う時代になっていくと思います。我々団塊の世代が今までずっと働いてきて、これからゆっくりしたいと思った時に、やっぱり健康第一と

なれば、鍼灸の「治未病」の需要がもっと出てきて良いんじゃないかなと。鍼灸に対して、鍼灸師になる前と今では違った感じで携わっています。

私は定年までサラリーマンをやってきて、第二の人生というかたちで入学しました。最初は生活するためという意識があったのですが、三年間勉強して、開業して、鍼灸に携わっていると、お金儲けという意識は薄れました。サラリーマン時代は35、6年営業職に携わり、とにかく売上を上げる事を考えて頑張ってきたけれど、ここにきて何か違う考えに触れ変わってきたところです。患者さんもその先生に治療して欲しくて来るんだから、一国一城の主としてやっていくのが面白いかなと思います。

栗崎： 院長の姿を見ていると、昔はどの町にもいた何でも相談屋さんというか、ちょっと困ったときに何とかして助けてという、駆け込み寺のような役割が必要かと思います。ただ治せばいいとか、ただ痛みをとるだけではなくて、痛みをとっている治療の途中の話が大切。メンタルな部分での会話もできる町の万屋さんの鍼灸師像も残っていっても良いのではないかと思います。

——本日は長時間ありがとうございました。

〈平成24年7月3日 素靈記念館にて〉

訃 報

永年にわたり、本校講師ならびに同窓会会长を務められた横山治夫先生が9月8日逝去されました。ご家族（奥さま・本校卒）から連絡があり密葬・家族葬を営まれたことをお知らせいたします。

ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

同窓会役員・理事一同 拝



尾上 史晃 (おのうえ ふみあき)先生

担当科目: [経絡経穴概論Ⅰ] [衛生学] [はりきゅう実技ⅡB]
[鍼灸特講] [臨床実習]

趣味・特技: 波乗り・登山・中国茶

座右の銘:『おもしろき ことなき世を おもしろく』



大西 立人 (おおにし りゅうじん)先生

担当科目: [経絡経穴概論Ⅰ] [衛生学] [はりきゅう実技ⅡB]
[鍼灸特講] [臨床実習]

趣味・特技: 映画鑑賞・スロット・中医学・四択問題の早解き

座右の銘:『ピンチはチャンス』



野田 亮 (のだ りょう)先生

担当科目: [解剖学] [生理学] [臨床医学各論]

趣味・特技: サイクリング

座右の銘:特にありません。



第20回 (平成24年2月実施)

国家試験問題を解いてみましょう！

あまし試験問題

＜問題6＞

- ある一時点で行った調査から得られる指標はどれか。
1.罹患率 2.有病率 3.死亡率 4.致命率



正解:2

＜問題43＞

- 神経について正しい記述はどれか。
1.脳神経は中枢神経系である。
2.脊髄神経は自律神経を含まない。
3.感覚神経は遠心性神経である。
4.運動神経はA線維である。

正解:4

＜問題88＞

- 中耳炎で正しい記述はどれか。
1.老人に多い。
2.夏に発症が多い。
3.肺炎球菌が原因になる。
4.慢性化しにくい。

正解:3

はり師試験問題

＜問題16＞

- 側頭骨にあるのはどれか。
1.視神経管
2.翼突管
3.頸動脈管
4.舌下神経管

正解:3

＜問題24＞

副腎について正しい記述はどれか。

- 1.髓質からアルドステロンが分泌される。
- 2.皮質は腹膜上皮に由来する。
- 3.副腎には間膜がある。
- 4.副腎からのホルモンは門脈に分泌される。

正解:2

＜問題111＞

大後頭神経の支配領域にないのはどれか。

- 1.承光 2.絡却 3.玉枕 4.脳空

正解:1

きゅう師試験問題

＜問題157＞

透熱灸刺激によって生じる局所炎症反応の際に起こるのはどれか。

- 1.ヒスタミンの分解
- 2.痛覚過敏
- 3.虚血
- 4.血管透過性の低下

正解:2

＜問題159＞

内因性オピオイドの特徴について正しい記述はどれか。

- 1.血液脳関門を通過することができる。
- 2.βエンドルフィンは脊髄後角に多く含まれる。
- 3.ナロキソンにより作用が増強する。
- 4.体内では短期間で分解される。

正解:4

(インタビュー他/H24年卒 福島聰子)

教えて 卒業生！

～進学Q&A～

在校生やこれから鍼灸を学ぼうという方のために「気になる疑問」をズバリ聴くコーナーです。今回は養成科への進学について。

四谷にある東京医療専門学校鍼灸マッサージ教員養成科へ進学された金原新さん（鍼灸あん摩マッサージ指圧科／昼間部 H24年卒）に伺いました。



——教員養成科ではどんなことを学びますか？

今は、月曜日～金曜日まで朝の9時半から座学と実技を学んでいます。現代鍼灸、中医、経絡治療（古典）などを教われます。

レポート提出も毎週あり、生理学実習のレポートには毎週苦戦しています。12月からは毎日が臨床実習になります。同じ患者さんを三ヶ月は診させていただける。だからフィードバックをちゃんともらえると思います。

——なぜ 養成科へ？

勧めてくれる先生もいたので、行ってもいいかなと。教員にもなりたかった。実技も積みたかったし、現代鍼灸（パルスなど）の中身も知りたかった。

東洋鍼灸で学ばなかった事を学びたかったのが一番の理由です。

——将来は教員に？

その時になってみないと…。めぐり合わせでなるものだから、なりたいと思ってなれるものじゃないし。

教員養成科で、他の学校の実情を聞くと、東洋鍼灸でしか教員になれない、他の学校では難しい。教員になるならば、卒業時に腕をもって卒業できる人を増やしたいっていう思いがあります。自分が、この学校でそういう教えを受けてきたこともあって。自分で技術を持っていなきゃいけないのが鍼灸師。そういうことを伝えていく人間を必要としている学校があまりないというか…。

国試の予備校みたいな学校が多いのかな。最低限といえば最低限だけど。

入学した時点で何を見てるか。ぼく自身は卒業したら『何も出来なくても、ベテランの先生達と同じように患者さんからみられる。追いつけなくともあがかないといけない』と、ずっと思っていた。ある程度覚悟をもたないと。

まだ30代の自分がいうのもなんですが、高校出ですぐの人生経験が少ない若い人は、自分の名前で何かやる、ということに慣れていない。そこまで想像がつかない。長めのスパンで自分の行動を考えられるか、など伝えられるか。まだそこまで自分自身、経験もないし発言も軽い。まだ、他の学校へ行ってその子達をそこまで上げてあげられるかといったら、まだないかな。

——出張で鍼灸・按摩のお仕事をされているそうですね

いつでも予約がはいれば治療します。平日は主に授業のない夜に、出張で鍼灸・按摩をしていて、鍼灸と按摩の比率でいえば按摩が6割です。時間で施術料を頂いているというのもあるんですが、按摩のほうが時間が使いやすい。ぼくの持っている技術だと。鍼だと時間がかかるてしまう。あえて按摩を増やしている部分もある。按摩10年という言葉もあるし。感覚が研ぎ澄まされるかなと思って。

上手くなりたいですね。ただ単にそれだけ厳しい世界。いつまで食っていいけるか。希望をもっていないわけではなく、やる事だけやって常に全力でいなきゃいけないと思っている。守りに入つてないで前に進む。つねにやり続ける。幸いなことに、患者さんがとぎれていないので楽しいです。

——なぜ 鍼灸師を目指したのですか？

人と直接関われる仕事をしたかったから鍼灸師を目指しました。前職は、スポーツイベントの運営スタッフを個人でやっていて、バイト扱いなのにバイトの学生の手配なんてこともやってました。ただ、その業界自体がおわっていくのが見えたのが2007年。これからなにをやろうかなと思って志したのが、鍼。鍼灸師を目指そうと思った時に相談したマッサージ師の方が、「卒業して直ぐ使えるのは、東鍼ぐらいね。」と勧めてくれました。その方は四谷の卒業生だったんですが、卒業してすぐ使えない学校があるのかと。よくわからないな、この世界はと思いました。

——影響を受けたものを教えてください

本だと「木に学べ」、宮大工の本。職人の生き方が書いてある。学校に入って影響を受けた先輩が2年上にいた。その出会いが今に繋がっている。とにかく治療に対して熱かった。治療技術という意味ではなく…。

全てが治療という事を教わった。雰囲気だったり、言葉づかいだったり、環境だったり、そういうのを全部ひっくり返めて治療だという事を教わった。

あと誘われれば、飲みの場所にホイホイついて行きました。先生だったり先輩だったり。その中でいろいろなヒントを与えてもらった。凝り性なので、そういう人との出会いがなければ、技術だけを追求していたと思う。

入学当初、そんなに志が高かったわけではなかった。時が経つにつれ、最低限やらなければいけない事がこんなにあると気付いた。だから『手づくり』の課外をたちあげたりした。基礎的な動き・柔軟性・感覚を研ぎ澄ますために定番メニューを作り、30分ぐらいやる。その後、左手で箸を使ってビーズをつなんだりとか、遊び感覚で訓練してました。今も基礎訓練は続けています。

——今後の目標はありますか？

将来は田舎にひっこみたい。最終目標として自然に近い所で治療家としていたい。直近の目標は、早く卒業したい(笑)

養成科に進んで、感じた事は『鍼って、こんなに痛いのか』と感じた事。それが、免許をもった人たちが打つ鍼である。東洋鍼灸ではありえない。国家試験重視の学校がたくさんあるということは、そういう人がたくさんいて毎年のようにそういう有資格者が生まれているということ。現実を知りました。

——東鍼校在学中で、一番印象に残っている事を教えてください

この学校で鍼灸あんま師になるための教育を受けられてよかったです。他の学校ではありえなかつたかな。あとは、各先生や、友人達との飲み会は大切。コミュニケーションをとるのが仕事だから鍛えられる。壁をつくらないでどんどん行くといい。苦手な人とかつらないで。

この業界の人達は、飲んでいて時間が進むと治療の話しになる。それが楽しい。



『楽しそうに話をする方だ。』と、お話を聞いてそう感じました。もともとは人相が悪かったり、短気なので笑顔にする努力をしてきたそうです。だから今のお顔になったのかと納得させられました。とても柔軟な雰囲気を持つ金原さんでした。

(インタビュー/H23卒 田中裕実子)

鍼灸師のボランティア活動

池袋を拠点に「ホームレス(路上生活者のみならず、ネットカフェ難民など定まった住所を持たない人、とりあえず家はあっても安心できる居場所を持たない人を含めた生活に困っている方)」が、孤立せずに信頼関係のうちに生きていけることのサポートを使命として活動している団体があり、その中で「ホームレス」の方に無料で鍼灸治療を8年間継続的に行っていいる鍼灸師達がいます。

活動場所の東池袋中央公園はサンシャイン60の北東隣り、繁華街にありながら数々の樹木が茂り鳥達のオアシスとなっています。

毎月第2・第4土曜日に行っているこの活動のメインイベントは19時からの配食。

公園内には早々に多くの方々が集まって来られ、順番待ちの長い列ができます。配食までの待ち時間に衣料品や日用品等の配布、生活福祉相談(生活保護や入院・施設入所を希望される方をサポート)、法律相談(借金・DV・賃金未払いなどの解決の手助け)、医療者による健康相談(治療が必要な方は医療機関へ繋ぐ)、マッサージ、鍼灸治療が全て無料で行われています。

私が参加したきっかけは2年生の4月、「鍼灸師がホームレスのボランティア治療をしている、その様子を見学に行く。」と学校の総合学習支援システムサブ「それいけ！」のブログに記事投稿されていたので同行させてもらいました。人員不足で活動している状況を伺い、学生の私でもお手伝いができそうだったのでやってみる事にしました。

活動内容は、近隣にあるテント等保管場所の鍼灸院から設備一式をアルミ製のリアカーに積み、治療場所である東池袋中央公園に運び、テント・ベッド・受付を設置、準備が整ったら治療を開始します。終わったら撤収、保管場所へ返却して解散です。

私の役割は準備・設置・受付・問診・カルテ管理です。鍼灸師の手が空いていれば「鍼灸治療無料でやっています」と書いたプラカードを掲げて公園内の方々へ声かけに廻ります。(近頃はスタッフ不足で行えません。)

治療方法は各鍼灸師のスタイルで行います。治療に伴って必要な鍼灸道具(ディスポ鍼、お灸、消毒液)ヘッドライト、患者さんの荷物を置くための

新聞紙などが必要です。また、簡易ベッドの寝心地を少しでもよくするために枕、足のしびれを長年かかえている患者さんのためにディスポ長鍼を持参する鍼灸師もいます。

もちろん掛かる経費は全て個人負担となります。

患者さんの主訴としては腰痛、肩こりが大多数ながら、問診すると既往歴や現病歴に怪我や内科疾患がみられるることは珍しくありません。また、それを理由に勤務先から解雇され、路上生活・野宿生活を余儀なくされている方もいらっしゃいます。

芝公園から徒歩、練馬から自転車で通われる方、焼き芋や他の配給所でもらったお菓子を差し入れてくださったり、毎回問診でたくさんお話を伺っていたら、あきらめていた生活保護申請を成し遂げて住居がみつかったと報告に来られたり。

鍼灸で喜んでくださっているのが伝わってきます。

活動場所／東池袋中央公園(豊島区東池袋3-1-6)

活動日／毎月第2・第4土曜日

●8月第2土曜日には「夏まつり」、年末年始には「越冬」と称して年末年始6日間連続で活動を行っています。

＜スケジュール＞

16:00 東池袋四丁目にある鍼灸院に集合。
資材積込み等準備。

16:15 東池袋中央公園へ向けて出発。

16:30 公園到着、設置。

17:00 治療開始。

19:00 治療終了。撤収、片づけ。

また、第3を除く毎日曜、埼玉県加須市の旧騎西高校に避難されている福島県双葉町の皆様のところでも鍼灸ボランティアを行っているそうです。

現在、患者さんが多く、鍼灸師・受付ともに不足している状況です。入学時にボランティア活動参加を

目標のひとつとして掲げたところ
『東鍼校の縁』によって始める事ができました。

本文章がどのなかの「第一歩」
踏み出すきっかけになれれば幸いです。

(H24年卒／飯塚美紀代)



所 感

同窓会長 天野寛敏

今年は同窓会の設立時に貢献された大先輩をはじめ、マスコミにも登場し活躍されている先生方の講演があり、卒業生だけではなく在校生多数の参加がありました。お話をされる方・聞く方。活発なやり取りを見て、とても喜ばしいと感じました。そして「同窓会だより」発刊。編集委員として参加した卒業生に感謝いたします。

いま、業団体の課題は「普及啓発・ボランティア・学術」とともに法人認可申請があります。法人格は①公益社団(財団)法人 ②一般社団(財団)法人の二つに分けられ、51%以上の公益性支出とその内容が認められた場合は前者と認定されます。業団体の一つ、東京都鍼灸師会も最終的な申請局面にあります。

さて、最近では「マツキヨ」で皮内鍼---パッチ鍼(一般向け)を販売。鍼灸師向けは「バイオネックス」。2月の「東京マラソン:ボランティアブース」で採用しました。素人に皮内鍼を販売-----私は賛成派。(いつも議論に応じたいと思います。)私が30代の頃、家族4人で4年間の海外赴任直前の方(自律神経失調・軽度のうつ)を治療しました。鍼灸で良転。赴任先で鍼灸が受けられるかどうか分からぬ不安を解消するために奥様同伴で簡単な管鍼法(弾入のみ)を教え、無事に職務を果たしたと帰国後に報告がありました。

鍼灸を学ぶ者、はじめは誰しもが素人です。鍼灸には「刺せば効く」「灸すれば効く」部分があります。それが故、全日本鍼灸学会で反論……ヨーロッパ医学者が発表した「プラシーボ鍼とベテラン鍼灸師の刺鍼に大差ない」……これはプラシーボ鍼そのものの存在や鍼灸の比較効果検証(RCTなど)が難しいところに起因していると考えます。人間力。鍼灸師にはそれぞれ良い特徴があります。しかし、不思議な世界「鍼」はある。

難経に「上工・中工・下工」とあります。これとは意味合いが違いますが ①気の世界・不思議な世界 ②鍼灸教育レベル ③一般レベル(鍼・灸をすれば効く) に置き換えると東洋鍼灸の卒業生は①のどこかを必ず体験していることだと思います。新設校は③の範囲が多いかと。(先日、ある新設校の学園祭で講演する機会があり、その新設校を前期でやめて来年の4月に東洋鍼灸に再入学するという方と出会った。)

最近では「美容鍼」。流行語のように聞く。その技法に頭:帽状腱膜への刺鍼もある。これは私が見ても有効。頭への技法は自律神経などを介してさまざまな「脳内活動への関与」がある。帽状腱膜への刺鍼----「鍼尖に仕事をさせる」水平刺15~20度。これも刺鍼の基本の一つ。そして頸は鍼灸師が見逃せない大事な部分です。これからも皆さんと共に「鍼灸のファンが増えること」に向けて取り組みたいと思います。

【ご意見をお聞かせください】

1. 毎年4月29日に開催する同窓会総会後の講演について…「演者・講演テーマ」ご意見募集中です。
2. 同窓生が行っている勉強会・研究会のインフォメーションを『医黄集門』に掲載しています。
新たな活動は12月末までにお寄せください。記載変更の場合も同様です。
3. 同窓会全般についてのご意見も掲載いたします。
「良かった・悪かった」をはじめ、ご意見などをお寄せください。
4. 『同窓会だより』記事掲載については7月末日までにお寄せください。

あて先は 東洋鍼灸専門学校同窓会 (メール:doso@toyoshinkyu.ac.jp) または
同窓会会長 天野寛敏 宛(〒120-0035 東京都足立区千住中居町8-12) お願ひいたします。

【会費納入のお願い】

同窓会の事業は卒業生の皆さまからの会費で賄っています。会費未納の方に「振込用紙」を同封させて頂きました。会費は年間3,000円です。毎年3月、納入された方に「医黄集門」を送付しています。卒業生や母校の近況など、情報交換を通じて「同窓生の架け橋になれば」と考えて運営しています。今年度は『会員名簿』の発行が課題です。どうぞご理解・ご協力の程、よろしくお願ひいたします。

第四十九回

東鍼祭

11月3日(土)・4日(日)開催

東洋鍼灸専門学校からのお知らせ

「卒業生開業施設マップ（治療院検索）」無料掲載のご案内

卒業生の皆様には平素より多大なるご支援・ご協力を頂き、心より感謝申し上げます。当校では2012年7月より「卒業生開業施設マップ（治療院検索）」をオフィシャルサイトに掲載しております。卒業生の開業施設を掲載することで、治療院をお探しの方や「はり・きゅう・あん摩マッサージ指圧」に興味を持っている方々への良質な保健提供に寄与し、あはきファンの増加、あはきの職域拡大に繋げていきたいと考えております。インターネットの特長を活かした「卒業生開業施設マップ（治療院検索）」は、開業施設の知名度や集客アップ、同窓生の近況を知るツールともなりますので、ぜひご活用ください。

東洋鍼灸専門学校オフィシャルサイト <http://www.toyoshinkyu.ac.jp>
お問い合わせ窓口 sotsugyo@toyoshinkyu.ac.jp 03-3209-5436

『平成25年4月生募集 入試日程』

試験区分	受験学科	選考日
自己推薦入試 A日程	鍼灸科(昼・夜) 鍼灸あん摩マッサージ指圧科(昼・夜)	10/21(日)
一般入試 A日程	鍼灸科(昼・夜) 鍼灸あん摩マッサージ指圧科(昼・夜)	11/11(日)
一般入試 B日程	鍼灸科(昼・夜) 鍼灸あん摩マッサージ指圧科(昼・夜)	12/ 2(日)
自己推薦入試 B日程	鍼灸科(昼・夜)	1/27(日)
自己推薦入試 C日程	鍼灸科(昼・夜)	2/17(日)
自己推薦入試 D日程	鍼灸科(昼・夜)	3/10(日)

お問い合わせ窓口／info@toyoshinkyu.ac.jp 03-3209-5436

東洋鍼灸専門学校 同窓会だより 第6号

発行日：平成24年10月1日
発行者：東洋鍼灸専門学校同窓会
会長 天野寛敏
編 集：「同窓会だより」編集委員会

事務局：東洋鍼灸専門学校内
〒169-0073 東京都新宿区百人町1-4-4
TEL:03-3209-5436 FAX:03-3209-5569
E-Mail : doso@toyoshinkyu.ac.jp